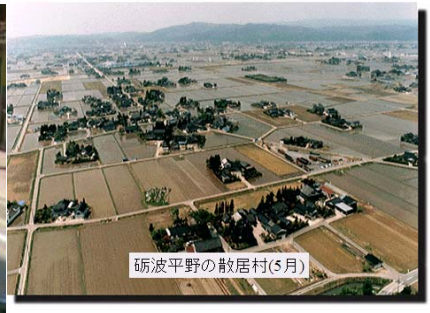


校訓　誠実・友愛・自律

沿革と概況

- 昭和37年に創立、本年で創立47年目をむかえ同窓生も約9700名となった。
- 主に砺波広域圏と高岡市の一部を通学区とし、ほとんど生徒が自転車を利用しての通学となっている。
- 砺波地区唯一の工業高校として地域イベントに積極参加し、

【地域に根ざし、地域に信頼される学校】を目指している。

本校の教育目標・方針

- 工業に関する技術を学び社会に貢献する有能な技術者としての資質を高め、工業人としての実践的態度を育てる
- ものづくりを通し自ら学び、考え、行動する力を身につけることで、個々の生きる力を養う

学級編成

	1年		2年		3年		全学年	合計
学　科	クラス数	人数	クラス数	人数	クラス数	人数	クラス数	人数
機械科	2	80	2	74	2	78	6	232
電気科	1	40	1	39	1	40	3	119
電子科	1	40	1	40	1	39	3	119
合　計	4	160	4	153	4	157	12	470

授業内容

必修科目
国語総合、現代文、世界史A、現代社会、地理A、政治経済、数学Ⅰ・Ⅱ、理科総合A、物理Ⅰ、体育、保健、オーラルⅠ・Ⅱ、家庭総合

選択科目
国語表現Ⅰ・Ⅱ、古典講読、古典、数学A・B、物理Ⅰ、理科基礎、芸術、英語Ⅰ、英語基礎、ﾌｰﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ

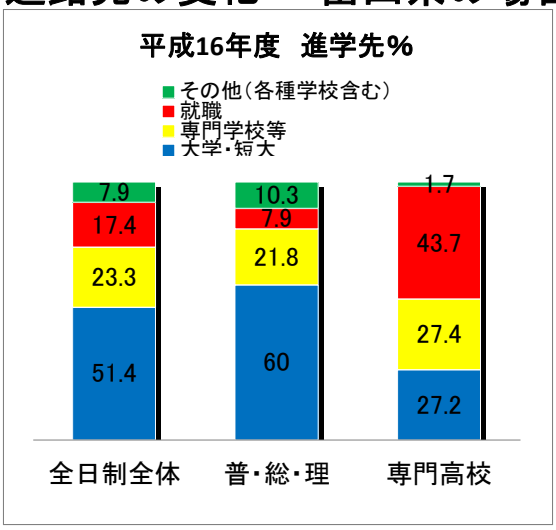
専門科目　工業技術基礎、情報技術基礎、課題研究

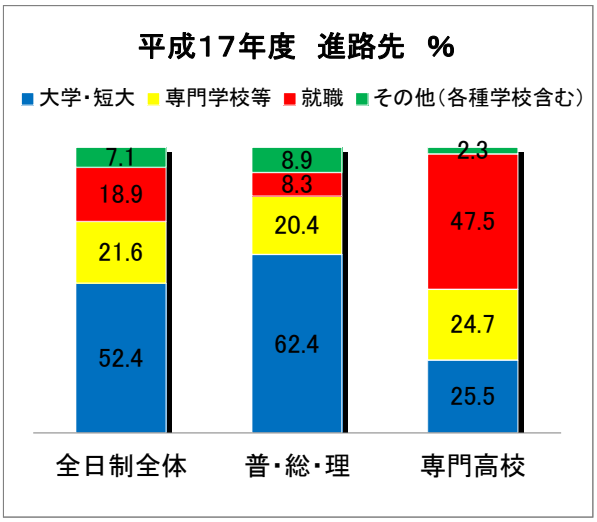
機械科	電気科	電子科
機械実習、機械製図、機械工作、機械設計、生産ｼｽﾃﾑ技術、原動機	電気実習、電気製図、電気基礎、電力技術、電気機器	電子実習、電子製図、電気基礎、電子回路、通信技術
機械実習、電子機械、自動車工学、電子機械応用	電気実習、電子技術	電子実習、電子情報技術

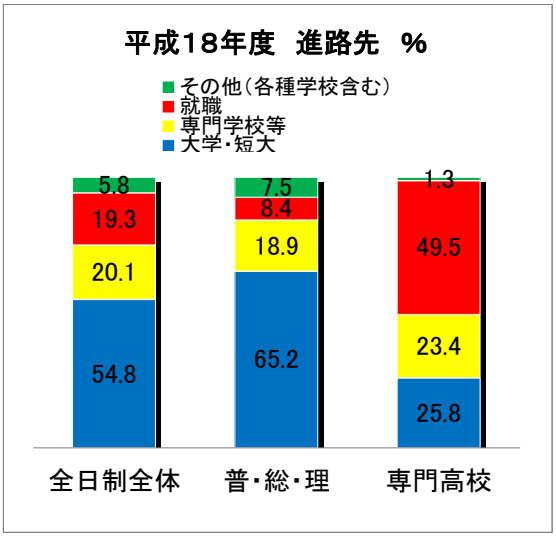
地域に根ざした活動

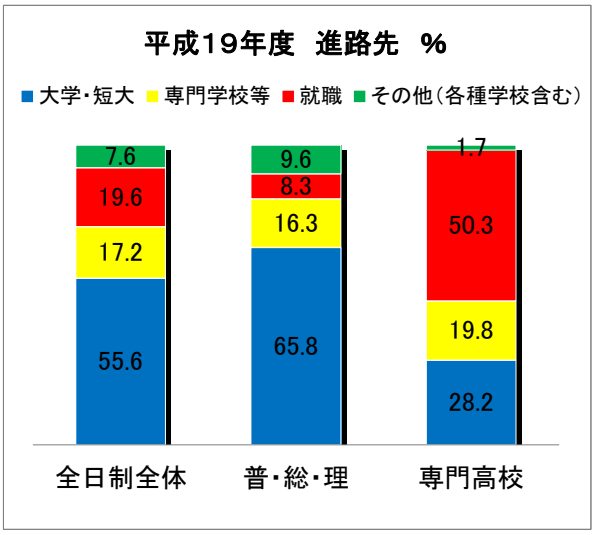
- インターアクトクラブ
- おもちゃの病院の開設(年間5～6回)
- 地域イベントの参加協力
  - 『チューリップフェア』砺波市
  - 『菊まつり』南砺市福野
  - 『柚まつり』砺波市庄川
  - 砺波市、南砺市産業展等

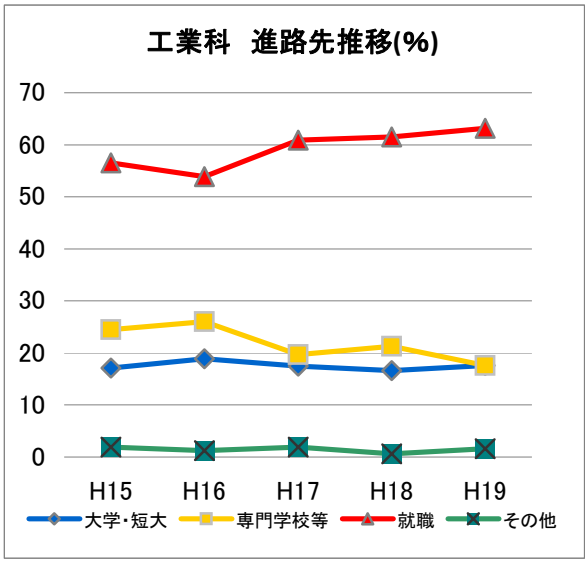
進路先の変化　富山県の場合

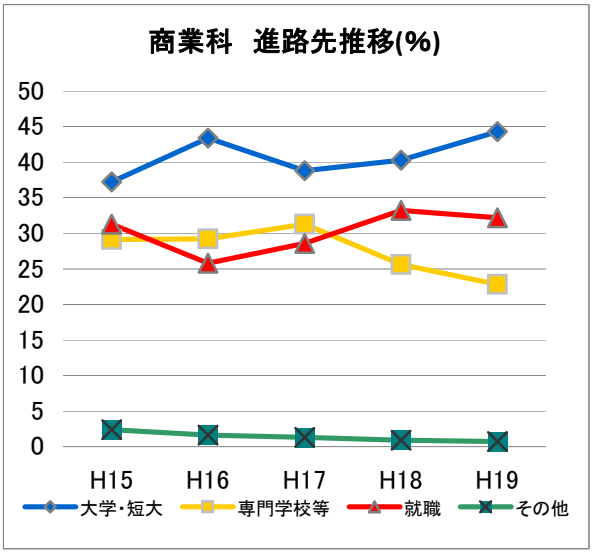




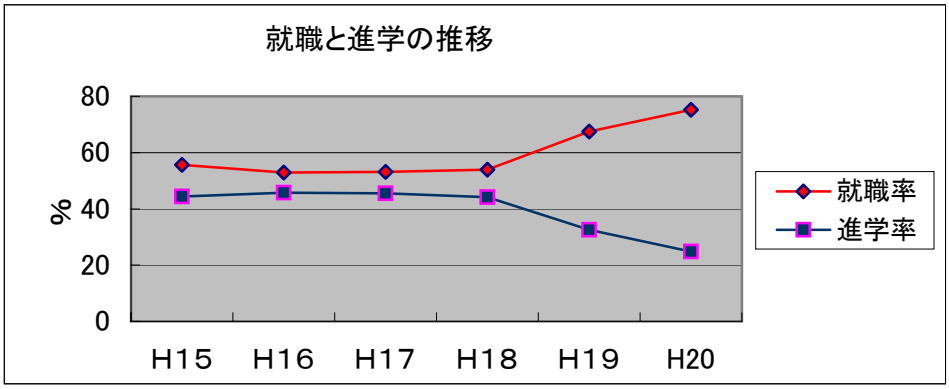


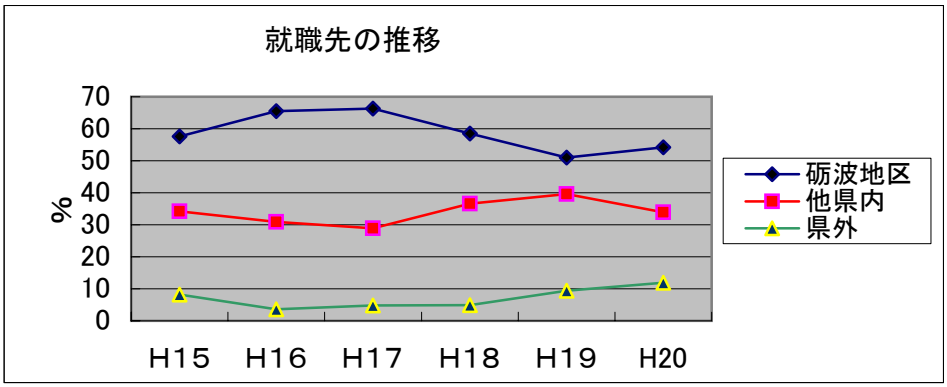


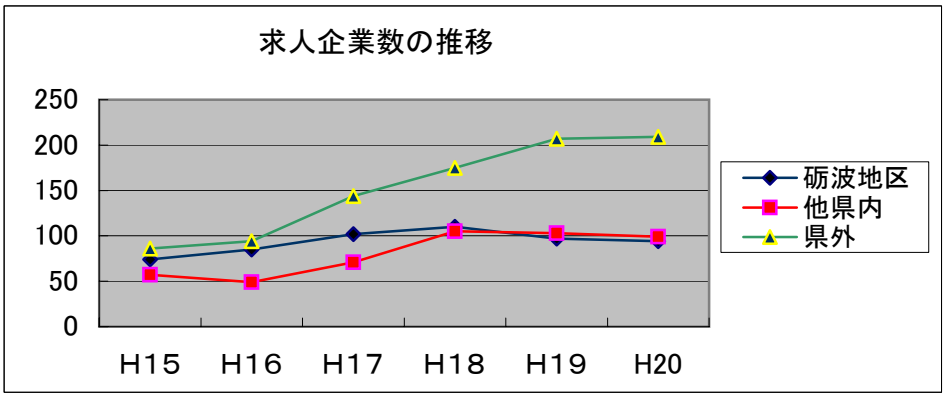




本校　進路先の変化（平成15年度～20年度）







本校　平成20年度卒業者の進路先

学科		機械	電気	電子	計	割合%
卒業予定者数		80	40	37	157	100
就職内定者数		61	31	26	118	75.2
進学予定者数		19	9	11	39	24.8
自営･その他		0	0	0	0	0
就職内訳	県内	56	24	24	104	88.1
	県外	3	6	2	11	9.3
	公務員	2	1	0	3	2.6
進学内訳	四年制大学	8	2	2	10	25.6
	短期大学	2	2	0	4	10.3
	職業能力開発大学校	2	2	2	6	15.4
	専門学校	9	3	7	19	48.7

本校　インターンシップ参加者人数の推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20
2年生	0	30	95	159	158	158
3年生	81	79	0	0	0	14
協力企業数	50	47	39	69	79	68

インターンシップ

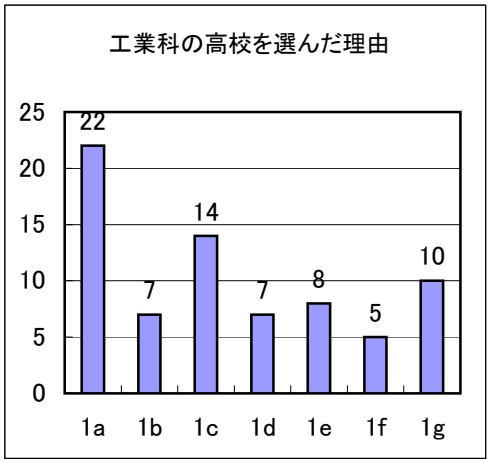
インターンシップ報告会

外部講師による就職セミナー

富山県内 工業科選抜生徒　工業系大学進学希望者へのアンケート

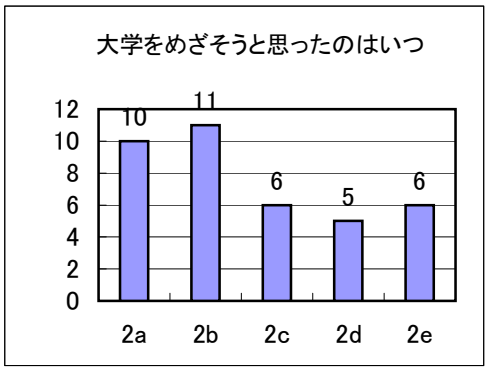
サンプル数 38名（男子33名　女子5名）　　平成20年7月実施

実施者：富山県立砺波工業高等学校　教諭　澤田　晃



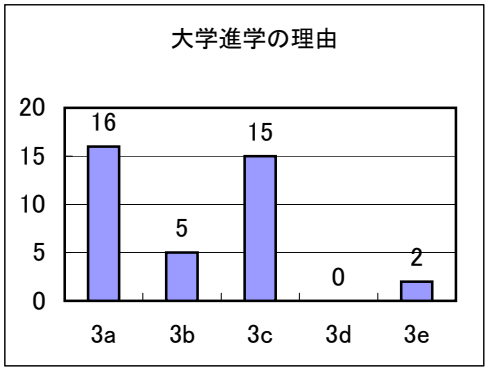
問1 あなたは工業科の高校を選んで入学した理由はなんですか。　（問1のみ　2つ回答）

1a	工業の学習に興味があったから。
1b	工業系大学入学をめざすのに有利だと思ったから。
1c	就職するのに有利だと思ったから。
1d	普通科に入りたかったが合格できないと思ったから。
1e	親や先生、友達が勧めたから。
1f	やりたい部活動があったから。
1g	普通科より勉強が楽だと思ったから。



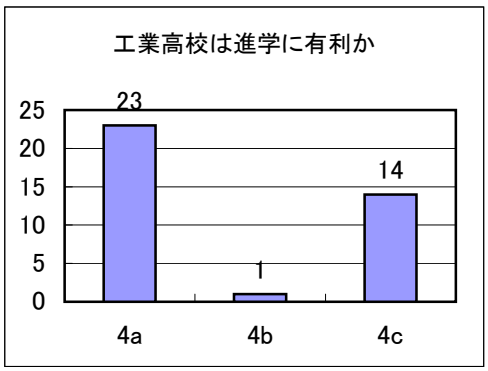
問2 あなたは大学をめざそうと思ったのはいつ頃ですか。

2a	高校入学前から
2b	高校1年生時
2c	高校2年生前半
2d	高校2年生後半
2e	高校3年生1学期



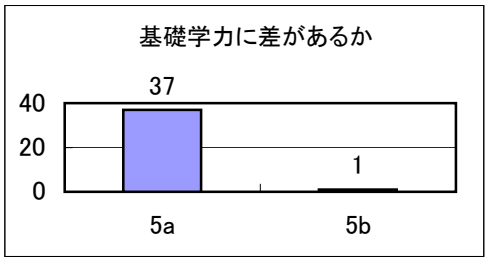
問3 大学進学する最も大きな理由は何ですか。

3a	大学でもっと高度な学習をしたり、技術を身につけたいから。
3b	勉強以外に、自分のやりたいことが大学にあるから。
3c	高卒で就職するよりも、大学卒で就職した方が有利だと思ったから。
3d	周りの人が大学に行っているから。
3e	家族の人が大学進学を希望するから。



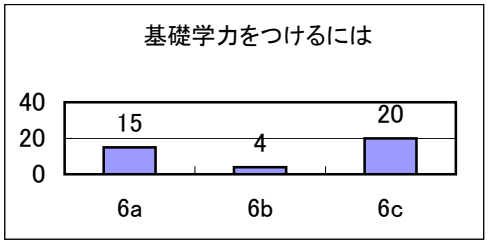
問4 工業高校から大学への進学は有利だと思いますか。

4a	普通科高校(普通科教室)の方が有利だと思う。
4b	専門高校の方が有利だと思う。
4c	どちらとも言えない。またはわからない。



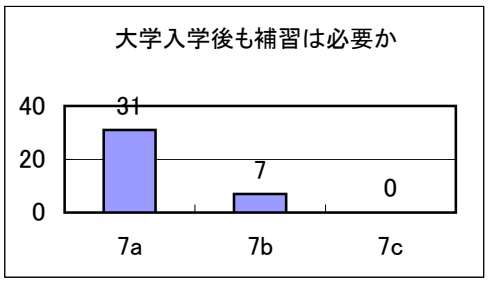
問5 普通科と専門高校とでは、基礎学力に差があると思いますか。

5a	差があると思う。
5b	特に差はないと思う。



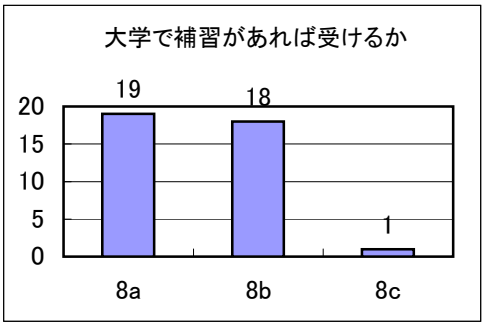
問6 基礎学力を身につけるためにしていること、またはすればよいと思うことは何ですか。

6a	学校での補習
6b	塾や家庭教師など校外の学習
6c	自主学習



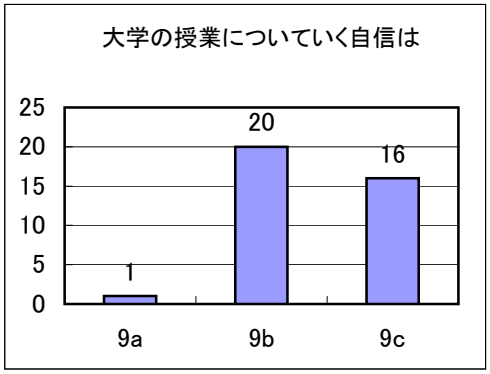
問7 大学入学後にも基礎学力を高める補習は必要だと思いますか。

7a	必要
7b	少しは必要
7c	必要ない



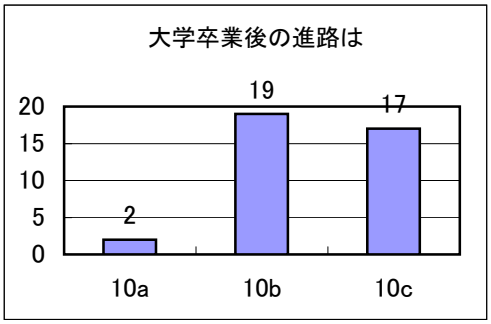
問8 大学で基礎学力を高める補習をしてくれる場合、あなたは受講しますか。

8a	是非受ける
8b	なるべく受けたい
8c	受けない



問9 進学後、大学の授業についていく自信はありますか。

9a	自信はある
9b	今はないが今後力をつける
9c	不安である

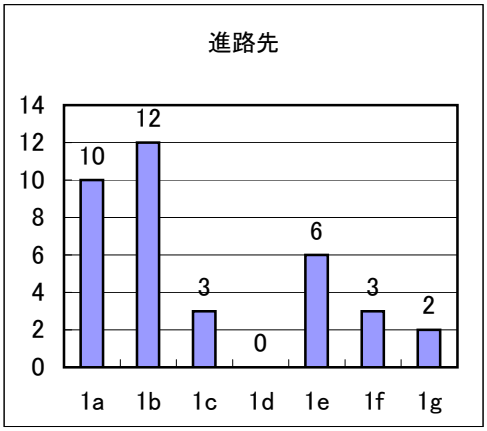


問10 大学卒業後の進路（仕事）は決めていますか。

10a	決めている
10b	だいたい決めている
10c	決めていない

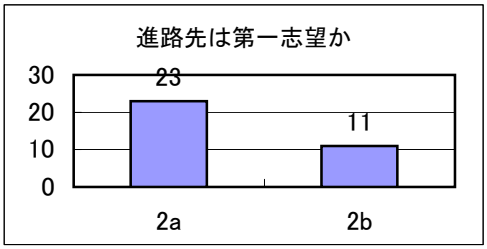
工業科選抜生徒　工業系大学進学者等へのアンケート2

サンプル数 36名（男子31名　女子5名）　　平成21年2月実施



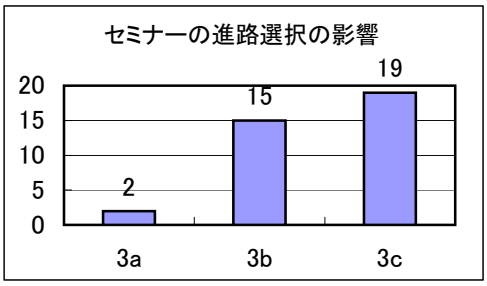
問1 あなたの進路先はどれですか。

1a	四年制国公立大学
1b	四年制私立大学
1c	国公立短大
1d	私立短大
1e	専修学校
1f	就職
1g	未定・その他



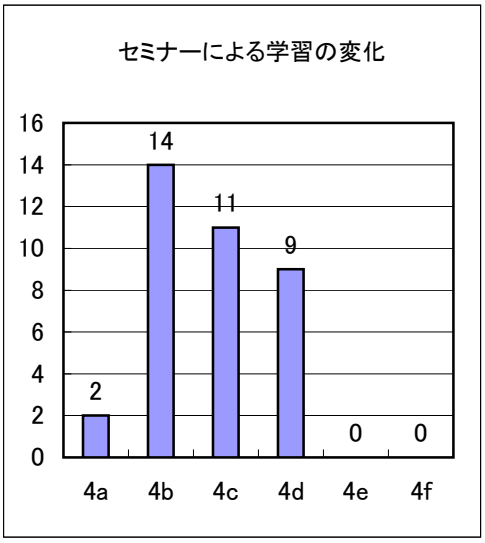
問2 問1の進路先は第一志望でしたか。

2a	はい
2b	いいえ



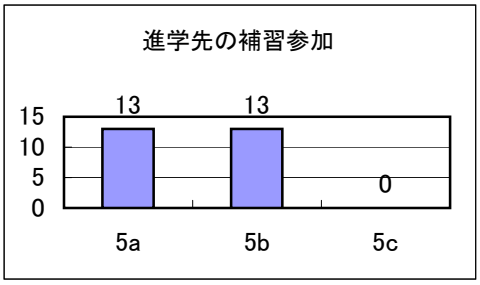
問3「学力向上セミナー」の参加は、その後の進路選択に影響しましたか。

3a	かなり大きく影響した
3b	影響した
3c	ほとんど影響しなかった



問4 セミナー参加後、学習はどのように変わりましたか。

4a	大変意欲が高まり、勉強がはかどった。
4b	意欲が高まり、少しずつ勉強できるようになった。
4c	勉強は変わらないが、しなければという気持ちを持った。
4d	ほとんど変化しなかった。
4e	自信がなくなり学習意欲が低下した。
4f	その他



問5 大学・短大に進学する人で、進学先で学力向上のための補習があれば参加しますか。

5a	ぜひ参加する
5b	なるべく参加する
5c	参加しない

大学進学希望者の指導

富山県内の各工業高校で多少の違いはあるが、各学校とも1，2年生から大学進学者に対する英国数の「補習」や「少人数選択授業」を展開している。さらに、富山県の工業科では、各工業高校から選抜された生徒（3年生）を夏休みの初めに集め、2泊3日の宿泊学習「学力向上セミナー」を平成10年度より実施している（富山県高等学校長協会工業部会主催）。集まる生徒は、工業系大学でも富山大学などの国公立大学への進学希望者が中心となる。今回、そのセミナーに参加した生徒より、セミナー実施時（7月）と半年後（2月）の2回、アンケートをおこなった。（資料参照）

7月アンケート結果より

- 成績上位の生徒が多いためか、工業高校に目的を持って入学してきた生徒は多い(問1)。
- 大学進学を早期に決めた生徒が多い(問2)。
- 大学進学への目的がある生徒がほとんど(問3)。
- 普通科高校生との学力差があり、学習しなければと思っている生徒が多く、大学入学後も基礎学力を高める必要があると思っている(問4～7)。
- 大学での学習に不安があり、大学においても基礎学力を高める補習を望む声が多い(問8～9)。
- 具体的な将来の目標を持っている生徒が少ない(問 10)。

2月アンケート結果より

- 就職に変更した生徒はいたが、おおむね志望の所に進学している(問1)。
- セミナーで影響を受けた生徒ほど、問4での勉強意欲を持つきっかけとなっている(問2～問4)。
  選抜された生徒ではあるが、セミナーの受講態度を見ると、意欲をもって学習している生徒は半分位である。アンケート結果からもうかがえる。
- 大学での基礎学力補習を望む声は、7月のアンケートと同様大きい。

各学校とも、生徒の学習向上には色々工夫しているが、なかなか勉強の手がつかない生徒が多いようである。普通科へのコンプレックスをもっている生徒が多く、このコンプレックスを取り除くだけの学力を、どのようにつけるかが指導の課題である。

工業科では優秀な生徒だから進学するとは限らないため、補習を行う場合、対象者の選考やレベルなど難しい。また、普通科の単位数が少ないため、担当する専任の普通科の先生が少ないことも苦労する。放課後の資格検定の補習と部活動との共存、ものづくりにかける時間の捻出なども年々困難さが増加している。なかなか学習に取り組めない生徒が多い中、ただ集めて「やりなさい」では効果がない。そこで、本校では、先生と生徒が互いにチェックして、コミュニケーションをとりながら学習を進められるよう、問題集を指定した「添削指導」中心の指導を実施している。